

新潟

## 反核医師の会ニュース

2014年 新年号 第63号



## 秘密保護法 成立



維新退席、みんな一部残る



発行：核兵器廃絶をめざす新潟県医師・歯科医師の会 代表世話人：谷田部 雄二

事務局連絡先：〒956-0814 新潟県新潟市秋葉区東金沢1459番地1 下越病院 内

## 戦争への道は 核兵器使用への道

新年明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願いいたします。

昨年12月、安倍内閣は特定秘密保護法案を採決とは言えない状況の中で決まった事にしてしまいました。そして安倍首相を先頭に靖国神社参拝をし、新藤総務相も今年参拝をして、近隣諸国からの批判だけでなく米国からも不快感を表されています。日本の政府は戦争の出来る国へ舵をきったように見えます。戦争の行き着くところは核兵器使用への道です。戦争へのステップは核戦争に反対する私たちの会としても強く反対しなければなりません。

昨年12月に日本・ASEAN特別首脳会議でインドネシアのユドヨノ大統領が提案した「力の不行使と紛争の平和的解決」の原則に基づいた相互のルール作りがアジアの国際的合意形成になろうとしています。安倍首相の姿勢はその流れに反しています。

さらに福島原発事故はコントロールされていると国外に表明した安倍首相の言葉を信じる国民はだれもいないと思いますが、東電の杜撰な事故処理により、未だにあちこちから多量の汚染水が海に流れ出して解決のめどが立っていない現状です。

一方、原発による使用済み高レベル放射線廃棄物の処分地を日本原子力研究開発機構（JAEA）が県内の佐渡市、村上市、関川村、新発田市、阿賀町などの地点の地質調査を行い、廃棄物を地下に埋設する地層処分の「敵地」としていたことが、新潟日報に報道されました。今後増大する核廃棄物の処分地に私たちの近くの場所がいつの間にか選定されています。原子力発電推進企業は県民の知らない間に物事を進めようとする体質を持っています。これが特定秘密に指定されたら国民は全く情報を得ることが出来なくなります。情報隠蔽の可能性がある特定秘密保護法は決まりましたが実施はさせるわけにはいかない悪法だと思います。

本年も皆様と一緒に戦争への動き、核保有・使用への動きに反対して参ります。

新潟県反核医師・歯科医師の会

代表世話人 谷田部 雄二

## 2013 年度 新潟県・反核医師の会 総会報告

【日時】9月7日(土) 午後15時30分より開会

【会場】クロスパルにいがた 404 講座室



写真：谷田部世話人代表のあいさつ



定例総会は、はじめの30分間に世話人会を代表して谷田部雄二世話人代表のあいさつ、五十嵐修世話人の2012年度の主な取り組みの報告と今年度方針の提案、会計報告があり、承認されました。

(会ニュース第62号に提案したもの)

### 【2012 年度活動報告】

2012年9月2日(日)の総会開催以降、世話人会を3回(11月、2月、6月)行い、ニュースは第61、62号を発行しました。なお、世話人や会員が参加した集会等について、2012年11月11日原発ゼロにいがた市民集会、同11月24日自治体学校プレ企画・柏崎刈羽原発フォーラム、2013年3月10日柏崎刈羽原発運転差止訴訟記念集会、同23日新潟県9条の会セミナー・孫崎享氏講演会、6月21日振津かつみ医師講演会(内部被曝・低線量被曝を勉強する医師の会主催)などの情報がありました。

### 【2013 年度方針案】

1. 反核医師の会ニュースを定期発行します。
2. 核兵器廃絶、原発ゼロをめざして情報収集を行い、他団体と協力して学習や活動を進めます。
3. 引き続き、会員の拡大に努め、財政の安定化をはかります。

本田氏の講演スライドから一部と事前配布された資料を転載し、講演の要旨を紹介します。

2013 年度総会 記念講演

『知られざる黒い雨の真実 -

低線量被ばくの人体影響について』 講師：本田 孝也 氏

(長崎県保険医協会会長、全国保険医団体連合会理事、情報通信部部長)



<要旨>

長崎原爆の影響について、爆心地から 2 km 以遠での被爆者に残留放射線の影響がみられたデータが最近、米国で見つかった。爆心地から東 7 km の地区・間の瀬で脱毛、戦後の小児死亡が多かった。発熱や下痢、脱毛など原爆症があり、長崎でも「黒い雨」が降った。

**知られざる黒い雨の真実**  
**— 低線量被曝の人体影響 —**  
 オークリッジレポート DS86 マンハッタン調査団

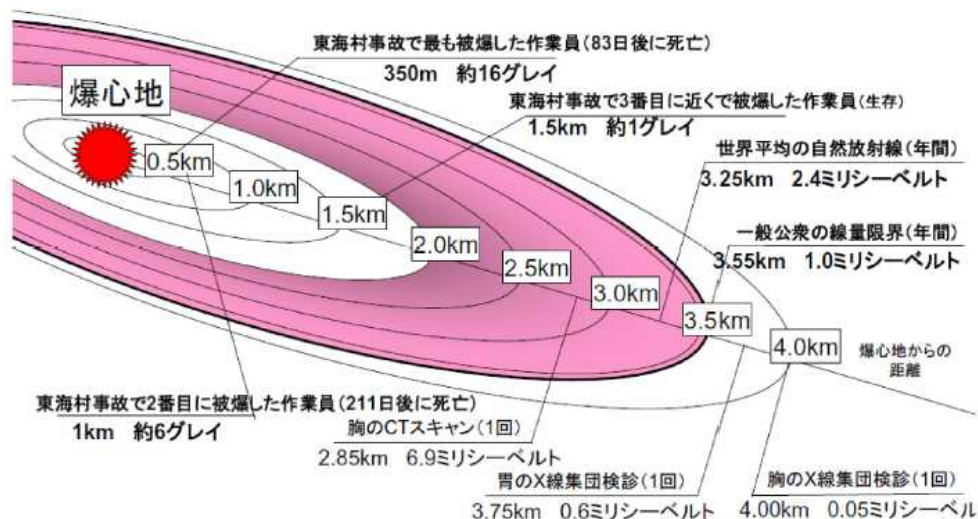
2013年9月7日 長崎県保険医協会会長  
 本田孝也

**黒い雨**

広島己斐・高須地区  
 10~30 mGy

長崎の西山地区  
 200~400mGy

放射線の線量と影響について(長崎の場合)



一般公衆の線量限界(年間)：放射線従事者でない一般人が許容できるとされる被曝量(年間)  
(ICRP(国際放射線防護委員会)1990年勧告による)

米国は原爆に関するデータを極秘扱い.....

名古屋テレビ 隠された被爆 2010年5月28日放送



本田氏は、長崎・西山地区の子どもたちは、福島県飯館村の雑草と同程度に I-131 に汚染された野菜を食べていたとする資料を提示

**[5]原爆線量の再評価 DS86 1976-1986**

1978 G.D.カー(オークリッジ国立研究所)は原爆線量見直しの必要性をDNAに通告  
 ⇒1979 DNAはオークリッジに見直しを要請。  
 ★サイエンス誌のマーシャル記者の取材  
 ロイ(ローレンスリバモア)は独自に計算した結果を示す。

**1981、5.22 サイエンスのスクープ記事**

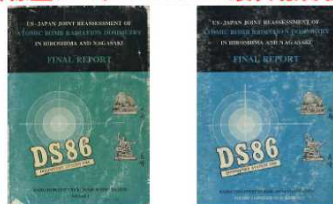
→ ロイの計算結果を公表

5.31 広島・長崎の原爆線量に関する第1回ワークショップ (ミネアポリス)

**[日米共同ワークショップ] DNA(Defense Nuclear Agency)**

- 1983. 3 長崎 国防総省核兵器局
- 1984. 11 広島
- 1985. 3 パサデナ (カリフォルニア)
- 1986. 3 広島 (最終会議)

**1987 新線量システム DS86 の最終報告書**



7

環境試料の測定結果(雑草)

採取地点	試料名	種類 又は部位	採取日時	放射能濃度 (Bq/kg)			空間線量率 ( $\mu$ Sv/h)	備考
				<sup>131</sup> I	<sup>134</sup> Cs	<sup>137</sup> Cs		
飯館村民の森あいの沢	雑草	葉菜	3月16日 13:00	1,220,000	554,000	574,000	>30	
	雑草	葉菜	3月17日 16:00	692,000	314,000	318,000	28.0	

試料名 [Sample]	種類 又は部位 [Sort or Region]	採取日時 [Sampling Time and Date] (測定日時)*2 [Monitoring Time *2]	放射能濃度 (Bq/kg)[Radioactiv			不検 [Not Detected]
			I-131	Cs-134	Cs-137	
雑草 [Weed]	葉 [Leaf]	2011/3/18 12:20	2,520,000	1,880,000	1,900,000	不検
雑草 [Weed]	葉 [Leaf]	2011/3/19 11:40	845,000	981,000	1,010,000	不検
雑草 [Weed]	葉 [Leaf]	2011/3/20 12:40	2,540,000	2,580,000	2,650,000	不検
雑草 [Weed]	葉 [Leaf]	2011/3/21 12:32	1,330,000	1,170,000	1,240,000	不検
雑草 [Weed]	葉 [Leaf]	2011/3/22 12:00	1,110,000	1,570,000	1,600,000	不検
雑草 [Weed]	葉 [Leaf]	2011/3/23 12:25	819,000	1,580,000	1,620,000	不検
雑草 [Weed]	葉 [Leaf]	2011/3/24 13:05	805,000	985,000	1,050,000	不検

子供が毎日200gの野菜を食べたら

**甲状腺被曝線量**

西山地区 5,300mSv

日見、矢上地区 660mSv

三重地区、野母半島 41mSv

放射線影響研究所は 2012 年 12 月「黒い雨」の人体影響解析結果について記者会見。広島ではリスク上昇はみられず、長崎では総固形がん死亡リスクは有意な上昇をみたが、その他、総固形がん罹患リスクと白血病死亡および罹患リスクの上昇はみられなかったなど「見解」発表.....

**「残留放射線」に関する放影研の見解**

2012年12月8日  
 公益財団法人  
 放射線影響研究所

はじめに～「残留放射線」のデータは本当に考慮されていないのか？

広島・長崎に投下された原子爆弾の放射線被曝線量については、公益財団法人放射線影響研究所（放影研）やその他多くの研究者によって解析されてきました。その結果、「残留放射線」の関与は「初期放射線（直接放射線）」の被曝線量推定値の誤差範囲内にあることが示されており、放影研は以前よりこのことを公表し、説明してまいりましたが（第2章参照）、残念ながら一部の方々から「残留放射線のデータが考慮されていない」との批判や疑問が繰り返し提起されてきました。本稿は、そうした批判と疑問が誤解に基づくものであることを述べ、皆様に正しい知識を提供することを目的とするものです。

しかし、放影研が「見解」を主張するデータをめぐって2013年2月公開シンポジウムが行われ、そこでは内部被ばくなど十分に解明されていないことが明らかになった.....

2013年2月17日 放影研シンポジウム



表3. 「雨」曝露の影響 (長崎、死亡)

観察期間	1950-2003			95%信頼区間
死亡数	12,488			
	373			0.24
	2,216			0.02, 0.11
	2,739	0.00	—	—
	103	0.22	-0.02, 0.49	2,450 0.00 —
	422	0.17	0.05, 0.30	100 0.30 0.04, 0.59
白血病	No	61	0.00	—
	Yes	1	-1.00	N.A.
	Unk.	18	1.07	-0.33, 2.46

そこが大変むづかしい。雨に遭った対象者のうち県外に出られた方が多かったとか。

雨に遭って癌に罹患した107人のうち100人が死亡=93%  
雨に遭わない人の死亡は63%。

表4. 「雨」曝露の影響 (広島、がん罹患, 1962-2005年)

広島	長崎			95%信頼区間
総固形がん	No	570	3885	0.00 —
	Yes	229	107	-0.18 -0.34, 0.001
	Unk.	4	2	-0.25 N.A., 2.3

表3. 「雨」曝露の影響 (長崎、死亡)

観察期間	1950-2003			95%信頼区間
死亡数	12,488			
	373			0.24
	2,216			0.02, 0.11
	2,739	0.00	—	—
	103	0.22	-0.02, 0.49	2,450 0.00 —
	422	0.17	0.05, 0.30	100 0.30 0.04, 0.59
白血病	No	61	0.00	—
	Yes	1	-1.00	N.A.
	Unk.	18	1.07	-0.33, 2.46

私どもも正直、困っている。総合的に判断して、黒い雨のせいで癌死が増えたとは言えない。

表4. 「雨」曝露の影響 (広島、がん罹患, 1962-2005年)

広島	長崎			95%信頼区間
総固形がん	No	570	3885	0.00 —
	Yes	229	107	-0.18 -0.34, 0.001
	Unk.	4	2	-0.25 N.A., 2.3

「黒い雨」による被爆(脱毛、下痢、発熱など)の記録あり。そのことについて、放影研側は「推測にしか過ぎない」とするが否定はできなかった。

35mSv

この少年は、爆食から2km先の地点にいた

ひとことで申し上げればわからない。ホットスポットがあったのかもしれない。しかし、あくまで推測にしか過ぎない。

以上、(スライド136枚から13枚のみを紹介)

【当日配布資料】

「知られざる黒い雨の真実」 低線量被曝の人体影響について

2013年9月7日

長崎県保険医協会会長 本田孝也

<p>1986年7月26日 読売新聞より 子供の死、癌、原爆症、差別 間の瀬地区は爆心地の東 7Km にある小集 落。原爆投下後黒い雨が降った。 2011年3月8日 間の瀬地区聞き取り調査開始 住民に脱毛が多発 2011年3月11日 東日本大震災 福島第一原発事故</p>	
<p>2011年9月26日 オークリッジレポート発見 1972年 ABCC の職員だった山田広明氏が オークリッジ研究所でまとめた黒い雨の人体 影響に関するレポート 2011年10月27日 長崎放影研 オークリッジレポートに集計上の誤りがあ るとの説明。しかし、そのやり取りの過程で、 13,000 人の黒い雨データの存在が明らかとな る。</p>	
<p>2011年12月20日 放影研記者会見 LSS 対象者 12 万人のうち、13,122 人が「雨」 に遭った(広島 12,269、長崎 853)、57,183 人 が遭っていない、2,085 人が不明と回答し、 47,931 人は無回答だった。 広島、長崎の黒い雨分布図を公表</p>	

2012年5月2日

デカーシーフィルム発掘

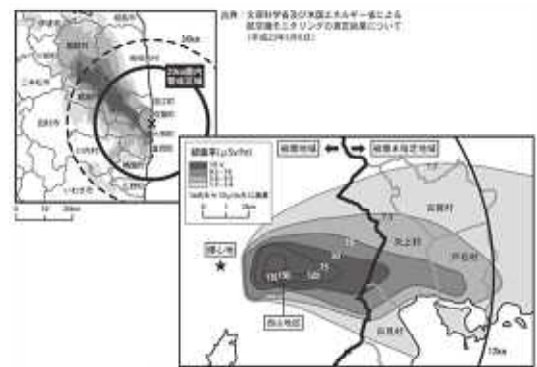
2012年7月14日

マンハッタン調査団最終報告の中に未解析の資料(付録 B)が保存されていた。

付録 B のデータより長崎原爆の残留放射線分布が明らかとなる。



最も放射線量が高かったのは爆心地の東3Km、黒い雨の降った西山地区である。住民の年間被曝線量は400mSv。福島第一原発事故の警戒区域よりも高い線量の中で住民は暮らした。後にホールボディカウンタにより内部被曝が証明。西山地区では白血球増多の集団発生、甲状腺結節の多発、染色体異常が報告されている。



2012年12月8日 放影研記者会見

黒い雨の人体影響解析結果を公表

広島については、「雨」に逢ったと回答した人の総固形がんおよび白血病のリスクは、死亡および罹患のいずれでも上昇はみられなかった。長崎では、1962～2003年の期間について総固形がん死亡リスクの有意な上昇がみられたが、総固形がん罹患リスクではみられず、白血病死亡および罹患リスクの上昇はみられなかった。

表3. 「雨」曝露の影響(長崎、死亡)

腫瘍病種	1950-2003年			1962-2003年		
	死亡数	ERR	95%信頼区間	死亡数	ERR	95%信頼区間
総死亡	No	12,488	0.00	10,292	0.00	-
	Yes	373	0.05	328	0.11	0.11, 0.24
	Unk.	2,216	0.46	1,275	0.04	0.02, 0.11
総固形がん	No	2,733	0.00	2,450	0.00	-
	Yes	103	0.23	100	0.30	0.04, 0.39
	Unk.	422	0.17	324	0.03	0.14, 0.10
白血病	No	61	0.00	47	0.00	-
	Yes	1	1.00	0	0.84	N.A.
	Unk.	18	1.07	11	0.48	0.72, 1.68

N.A. 計算不能

表4. 「雨」曝露の影響(広島・長崎、がん罹患、1962-2005年)

	広島			長崎		
	罹患数	ERR	95%信頼区間	罹患数	ERR	95%信頼区間
総固形がん	No	3708	0.00	3885	0.00	-
	Yes	2296	0.04	107	0.18	0.34, 0.001
	No	81	0.00	60	0.00	-
白血病	Yes	42	0.03	2	0.25	N.A., 2.3

回答カテゴリ「Unknown」は省略(有意差なし)

表1. 「雨」曝露が総固形がん、白血病の死亡、罹患に及ぼす影響(長崎) (放影研, 2012)

2013年2月17日 公開シンポジウム「黒い雨と低線量被曝放影研の12・8見解を受けて」  
<パネリスト>

- 大久保利晃氏 (放射線影響研究所〔放影研〕理事長)
- 小笹晃太郎氏 (放影研 疫学部長)
- 本田孝也氏 (長崎県保険医協会 会長)
- 大瀧慈氏 (広島大学原爆放射線医学研究所〔原医研〕教授)
- 高橋博子氏 (広島市立大広島平和研究所 講師)

## 各地の便り

**北海道：** 2013年10月発行の49号には、2013年9月の「つどい in 北海道」と6月の25回総会シンポジウム「福島原発事故後の甲状腺検診の諸問題」の記事。「つどい」では、村田光平氏（元スイス大使）の記念講演や教育講演2題、オスロ会議参加報告、2日目の分科会、そして「盛り上がった懇親会」など「つどい」の概要紹介。

6月の総会シンポジウムについては、菊水こども診療所・岡田靖氏（写真：下）が被災者甲状腺診療から「そもそも基準とすべき小児のエコー所見の基礎データがなく」被ばくの影響がないと言い切れるのかどうか「本当のところ」わからないなかで「自分たちのできる範囲で・・・さまざまな不安や要望に伝えていきたい」と語り、深川市立病院・松崎道幸氏は福島の子どもの甲状腺異常について、いくつかの見解（福島検診で発見された甲状腺がんおよび疑いの頻度は、被ばくと関連しない高校大学生の集団の頻度と大きな差はないこと／放射線被ばくのある福島では、チェルノブイリの経験に沿って、子供たちの甲状腺検診をしっかり行う必要がある、など）を提起しています。9月に230名の参加で行われた「長沼一審判決40周年記念集会」の紹介記事もありました。遠く富山から参加した福島重雄元裁判長のスピーチに「人生をかけた歴史的な『自衛隊は違憲』判決以後、裁判所内で冷遇さ



れながらも、ずっと日本の平和のことを考えて生きてこられた」ことが分かり、安倍内閣の改憲策動のなか「憲法を守るたたかひの大切な学びと決意の機会となった」とあります。

**千葉：** 2013年10月の第102号は第30回総会報告からはじまり、次に8月24日に開かれた「ピースフェスティバル2013」（千葉市文化センター）のレポートを掲載。



「いま、力をひとつに」と題して約400人が参加。ソプラノ歌手・堀口弥生氏とピアノ奏者・平木晶子氏の歌。被爆者・小谷孝子氏の壮絶な被爆体験の証言コーナーで「戦争を無くし、核兵器を無くし、原発を無くし、病気や飢えを無くし、人を憎む心を無くし、人や動物や植物の命を大切にしましょう」と訴えられたこと。松元ヒロ氏の政治風刺コントで「爆笑の渦」と紹介されています。2013年11月10日に北海道がんセンター名誉院長・西尾正道氏を講師に被曝問題学習講演会「低線量被曝による健康への影響」（主催：千葉県保険協会、共催：核戦争防止千葉県医師の会）が行われる通知があります。

**東京：** 2013年10月の第85号には、9月の「北海道幌延町 - 核廃棄物施設誘致の現場」の視察報告と8月長崎・原水爆禁止世界大会の報告あり。幌延町は地盤が軟弱で原発建設不適合となり、2000年に核抜き施設「深地層研究センター」が開所。しかし、高レベル放射性廃棄物処分施設ができるのではないかと危惧され「反対運動をすすめる」とあります。





3つの立坑外観（深地層研究センター）

東京反核医師の会代表委員・向山氏のレポートでは、幌延の岩盤が泥岩でそれほど硬くなく、地下水も多いため万が一汚染したら周囲の酪農業は大変なことになるとしています。原水禁大会2013は8月に長崎で開催。「核兵器の非人道性を訴えてきた被爆者の声が国際的な潮流になっている」こと。分科会「映像のひろば」の報告では、原爆認定集団訴訟「おりづる」（国を相手に306人の被爆者が告訴）とNHK-BSで放送された「もうひとつのアメリカ史」第3話「原爆投下」の紹介。ここでオリバー・ストーン監督が登場。閉会式にも参加したストーン氏が「歴史を語る時は、どんなにつまらないものでも、残酷であっても、実際の姿を伝えるべきである」と訴えたとあります。事務局だよりに、10月の原発ゼロ統一行動（日比谷公会堂2000人）と東京保険医協会主催・反核医師の会協賛した「福島の放射線汚染からの環境回復について」（講師：児玉龍彦氏）が記されています。

**富山：** 2013年10月発行の会報では、8月に行われた「はだしのゲン」上映と被爆体験を聞く会の記事がメイン。富山反核医師の会、富山県被爆者協議会、「はだしのゲン」をひろめる会の3団体共催で子ども25名を含む146名が参加。アニメを「食い入るように見つめ、あちこちで多くの参加者が涙を流し鑑賞していました。」その後、3名の方が被爆体験を語り、その要旨が掲載されています。そのほか、世話人の寄稿があり、NHK「終わりなき被爆との闘い」を見て（金井英子氏：被爆と骨髄異形成症候群の関係）、日本外来小

児科学会ワークショップ「放射線の小児の健康への影響」について（小栗絢子氏：チェルノブイリ事故から子どもの慢性健康障害）、真実は隠蔽されてはならない（黒部信也氏：731部隊と薬物エイズ問題）、アベノアゼンプレゼン（小熊清史氏：安倍首相の五輪招致、Under control）が掲載されています。

**大阪：** 医師・歯科医師会員のほか、学生、一般会員も含む「大阪反核平和医療人の会」2013年10月の第8号ニュースには、9月の北海道つどいが詳しく報告されています。北海道の方言で「平和憲法なまらいいんでないかい。核兵器と原発ダメだべさ。みんなでやればできるっしょ」がメインテーマ。村田氏（元スイス大使・東海大名誉教授）の記念講演は、行き過ぎた経済至上主義による「三カン欠如」（責任感、正義感、倫理観）から「問題を隠蔽する」「先送りする」「誰も責任を取らない」ことが日本だけでなく世界中に広まりつつあり、これらのことが国民の生活を苦しめている。唯一の被爆国日本が核兵器廃絶に向けてリーダーシップをとっていくことが大切と「熱く語られ」たとあります。



大阪反核平和医療人の会は8月に講演会を開催。李英和氏（リヨンファ・関西大教授 写真：上）による「北東アジア非核化の展望を考える」副題：北朝鮮の核計画をめぐって...として、かなり踏み込んだ内容も含めて北朝鮮の内情が語られたとあります。北朝鮮の世襲制維持の困難、派閥争いなど現政権はもって10年、非核化の展望は「ある」と話され、日本と韓国と一緒にイニシアチブをとれるかが鍵としました。

**岡**山： 2013年11月の36号は、第26回総会議案との合併号。11月4日に小出裕章氏(京都大学原子炉研究所助教)を講師に記念講演「この国は原発事故からなにを学んだのか」を予定。第26回定期総会の「宣言」は、「いま世界の世論は核兵器廃絶に向かって確実に高まっています」とし、新STARTの核兵器削減、その始末、テロ対策、新たな核保有国の問題、国内的には被爆認定の問題と原発事故被害に触れ、「私たちはこれからも期限を切った核兵器廃絶、被爆者救援と放射能汚染とは無縁の平和な世界を作るために活動します」と宣言しています。

**福**岡： 2013年11月号の82では、8月24日の福岡県反核医師の会第25回総会で「核兵器のない世界へ～世界の現状と日本」と題する記念講演(梅林宏道氏・長崎大学核兵器廃絶研究センター長)があり、核軍縮の流れの停滞を打ち破る注目すべき3つの動きを紹介。1つは、2013年3月のオスロ会議に象徴される核兵器の非人道性に焦点を当てた運動。第2に、5月以降の国連総会の下での公開作業部会における核軍縮交渉の新しい場の模索。第3は、中東と北東アジアで生まれている非核兵器地帯に関する新局面とのこと。第1と第3の進展による「米口各300～500弾頭を条件に5核兵器国がテーブルに着く」ことによって「核抑止論の質的転換が始まる」とあります。また、私たちの具体的な取り組みとして、核兵器禁止条約を実現させるICAN運動と北東アジア非核兵器地帯構想の実現を求める運動の二つがあるとしています。北海道つどいの報告は3頁にわたり記載されていますが、その項の前に、2014年「全国反核医師のつどい in 福岡」の記載あり。11月1～2日(土、日)の準備を開始したとあります。福岡つどいは、2015年NPT再検討会議の前年あたり、重要な役割を担うことになると位置づけ、大きく成功させることを期し、会員の協力を要請しています。

\*\*\*\*\*

## <編集後記>

昨年暮れは暗澹たる国会のあり様でした。自公政権の1年間は、「戦前」の臭いがプンプンする安倍首相の「美しい国」づくりのはじまりなのでしょうか。日本版NSCで外交や軍事問題に関する権限を官邸に集中！ 一方で秘密保護法により国民の目と耳と口をふさぐ。「防衛計画大綱」では軍備増強を唱え、また、日本から武器輸出もできるように見直し、「積極的平和主義」という不気味な言い方で集団的自衛権を訴え、平和憲法を蹂躪！！アメリカといっしょに戦争ができる国をつくる。さらに「エネルギー基本計画」案では委員の反対意見を無視して原発を「重要なベース電源」と位置づける等々、「多数をもって強行する」「個人より国家」を優先する政治が続きました。当然、かつてない規模で多くの国民が官邸や国会周辺を包囲、反対の声を上げました。安倍自公政権の支持率は低下。このような政治が、いつまでも続くはずがない。沖縄の名護市長選挙では、辺野古埋め立て反対、沖縄県内移設反対の現職知事が再選し、地元住民の意思が示されました。2014年の午年に暴れ馬の「暴走」を許してはならないと思います。東京電力が柏崎刈羽原発を再稼働させようとしています。原子炉から出る放射性廃棄物の最終処理ができないまま、地震の多い日本で原発を運転しつづけることは許されないのに、原発を不良債権にしたいくない巨大な利権集団が暗躍しているのでしょうか。多くの市民が原発を止め、再生可能エネルギーに変えていくことを願っていると思うのですが、東京都知事選は原発ゼロをひとつの争点にたたかわれ、国のエネルギー政策を問う結果となることを期待します。今年も核兵器廃絶を求め、仲間を増やしましょう。「本会の目的は核戦争に反対し、核兵器の廃絶のために医師・歯科医師として可能な努力を払うことにある」(会則第2条) [0]